

外国人労働者が健康で働き続けられるために

# 結核を正しく知って 健康的な職場づくりを

現在、日本では、外国生まれの結核患者が増えています。  
結核について正しく知ることで、健康的な職場をつくりましょう。



結核とは

結核菌の感染によっておこる伝染病です。  
主に、肺に病変を作ることが多く、肺炎のような症状を起こします。

# 外国生まれの結核患者

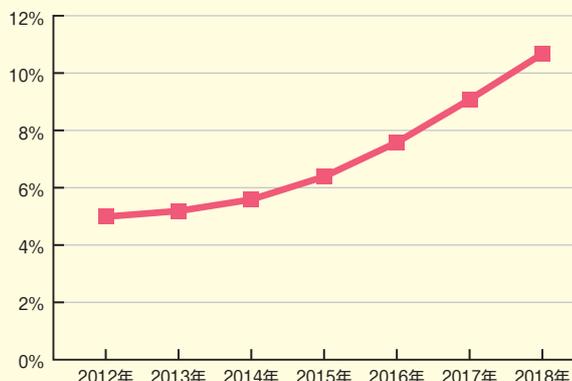
## 外国生まれの結核患者が増加

近年、日本では外国生まれの結核患者が増加傾向にあります。

2018年には1,667人と、日本全体の結核患者数の10%を超えました。



### 外国生まれの結核患者の割合



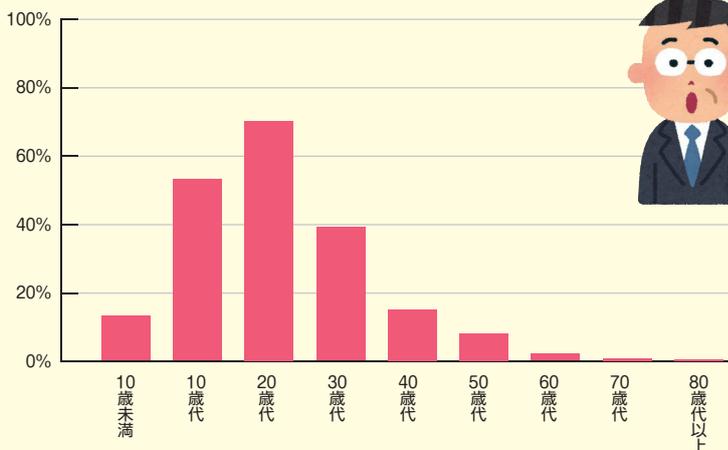
出典：厚生労働省 結核登録者情報調査年報集計結果

## 若い年代に多い 外国生まれの結核患者

外国生まれの結核患者は若い年代に多いのが特徴です。

2018年に日本で診断された結核患者のうち、外国生まれの割合は、10歳代、20歳代で半数を超え、30歳代でも約40%を占めています。

### 年代別外国生まれの結核患者の割合 (2018年)



出典：厚生労働省 平成30年結核登録者情報調査年報集計結果

## 実際に結核患者の対応に関わった監理団体様の声

企業赴任前の技能実習生が、健康診断で「肺が白い」と言われたときは、驚きと戸惑いから「どうしたらよいか」、保健所の助言を仰ぐしか方法がなかった。結核は、今の私達の身近な生活にはなく、ドラマや劇の中のことと思っていた。実際に経験すると、日本だけではなく、アジアの国々からの結核患者も多いこと、仮に発病しても治る病気であり、また、国の費用で診療ができることなど、学ぶことが多かった。

健康診断で世話になった病院の医者からは、「東南アジアから来る人たちの感染症をどのように考えているか」と来院

するたびに警告されていた。当初は、その質問の意味が理解できなかったが、患者が発生するとその対応に多くの時間とエネルギーがかかった。

日本の人口減少に伴いアジアの人々の就労が日常化する今、行政機関は、結核をはじめとする感染症に関する情報発信を行うことが必要だと思う。そのためのパンフレットが作成され、広く啓発が行われることで、過剰に心配することなく、皆が共生共存できるとよいと思う。



# 職場で結核を広

## 早期発見

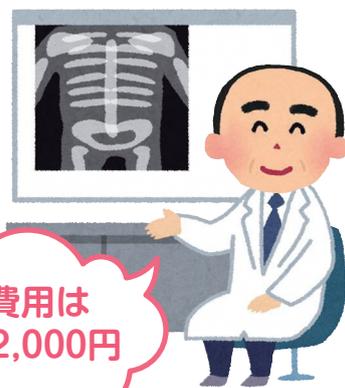
雇い入れ時健康診断は、早目に行いましょう。

発見が遅れると、感染拡大につながりますので早目に行うことが大切です。

定期健康診断では、40歳未満でも胸部エックス線検査を実施しましょう。

医師の指示がない限り、40歳未満の胸部エックス線検査は省略できません。結核を診断するには胸部エックス線検査が必要になりますので、省略せずに必ず実施しましょう。

雇い入れ時の健診で異常がない場合でも、その後、発病することもあります。定期健康診断でも、胸部エックス線検査を必ず実施しましょう。



健康診断受診後のフォローアップを確実にいきましょう。

健診もれ者を把握して、全員受診につなげましょう。もし、胸部エックス線検査で異常が見つかった場合は、必ず医療機関への受診を促しましょう。

外国生まれの方は、日本語で日常会話ができても、漢字で書かれた健診結果を読めないことが多い状況です。悪気なく、精密検査などの案内を放置し、症状が悪化することもあります。

## 実際に結核患者の対応に関わった雇用主様の声

外国人技能実習生が、仕事を始めて2～3ヶ月経った頃、頬がげっそり落ちているのに気づいた。体調を確認すると、「熱や咳があるので、母国の薬を飲んでいる」との返答。すぐに医療機関を受診させた。すると、肺結核で、しかも、周りに感染させる状態と告げられ、その実習生は入院治療が必要に

なった。職場では、職員25人全員が接触者として、保健所による接触者健康診断を受けた。幸いにも職員やその家族に感染者は出ず、ほとんどのを鮮明に覚えている。今思えば、本来行うべき「雇い入れ時健康診断」をきちんと受けさせていれば、もっと早く発見できたのではないかと思う。

# 広げないために

## 早期受診

以下のような時は  
早目に医療機関を受診するよう勧めましょう。

- ◎咳、せき たん痰、発熱など、風邪のような症状が2週間以上続く時
- ◎仕事を続けて休んだり、元気がない、顔色が悪い、やせてきた時

受診後も症状が続く場合は、再度、受診を勧めましょう。



発病リスクの高い人は特に注意が必要です。

- ✓ HIV/AIDsである
- ✓ ステロイド、その他の免疫抑制剤を使用している
- ✓ 糖尿病がある(血糖値が高いのに放置している)
- ✓ やせてきた/やせている
- ✓ タバコを吸っている

### Point



夜更かしや深夜労働など、不規則な生活は、免疫力を低下させます。



# 職場で結核が

## 感染と発病の関係

結核は、肺結核患者のくしゃみや咳<sup>せき</sup>によって、空気中に飛び散った結核菌を吸い込むことで感染します（空気感染）。感染しても全ての人が発病するわけではありません。

### Point

感染と発病は違います！



吸い込む



結核菌

## 感染者・発病者は？

### 発病した場合、6ヵ月間の治療が必要です。

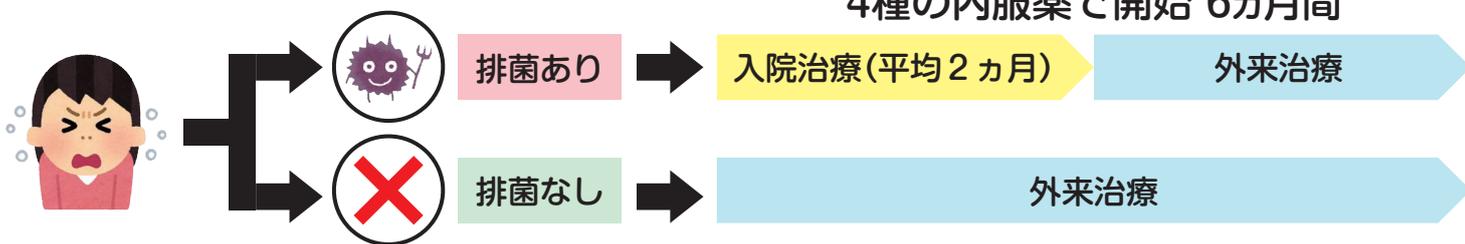
排菌している場合は、周囲の人に感染を広げる可能性があるため入院治療が必要です。排菌していない場合は、外来治療を行います。



### マメ知識

結核菌は、通常の細菌やウイルスとは異なり、増殖が非常に遅いため、感染してから発病までの期間が長いのが特徴です。そのため、治療も6ヵ月間と長期になります。

### 4種の内服薬で開始 6ヵ月間



### 発病していない場合、感染者は発病予防の治療が受けられます。

予防治療についての判断は、医師が行います。

### 1種の内服薬で 6ヵ月間

外来治療

### 結核治療に係る医療費は、公費負担制度が適応されます。

入院しなければならない場合（周囲の人に感染を広げる場合）

自己負担額 原則0円

上記以外の場合

自己負担 5%



周囲の人に感染を広げる可能性がない場合は、通院しながら仕事が可能です。

# 発生したら!?



## 職場の対応は？

### 保健所が接触者調査を行うことがあります。

職場の同僚・顧客、同居者など、接触した人の状況を確認します。

### 必要に応じて保健所が接触者健診を行います。

濃厚接触者や発病リスクの高い人を優先し、段階的に実施します。

### 環境や物品の消毒の必要はありません。

結核は空気感染なので、物品を介して感染することはなく、消毒の必要もありません。

#### 人権への配慮が必要です。

医療の進歩により、結核の治療方法は確立されていますが、今でもなお、差別や偏見があります。患者の人権が損なわれる事態がおこらないよう、細心の配慮が必要です。

#### 結核患者をむやみに恐れないで！

全ての患者が、周囲の人に感染を広げるわけではありません！

2018年の外国生まれの結核患者のうち、周囲の人に感染を広げる状態の方は、4人に1人でした。

## 実際に結核患者の対応に関わった雇用主様の声

職場には、日本人・外国人技能実習生合わせて35名の社員がいた。実習生の健康面は健康診断で管理しており、雇入れ時健康診断、1、2年目の健康診断全てで異常はなく、まさかの発病に驚きだった。その実習生は周囲へ感染させる恐れがあるため、入院し治療を行った。一方、他の社員の健康が心配だった。全員が保健所の接触者健診を受け、感染の有無を調べた。結果、日本人4人と実習生7人の感染者が見つかった。社員への説明にはかなり気を配った。結核という病名のイン

パクトは強いと、動揺や偏見を生まないよう細心の注意を払った。感染者が多く日本人の反応は微妙だった。

感染は認められるが発病はなく、全員内服治療で普段通りの生活ができると説明を受け、安心した。感染している人、発病した人を責めることは許されない。病んでいる人の気持ちに寄り添い、皆で助け合って頑張ろうと誓った。お蔭様で1人の治療離脱者もなく終息した。

# 職場の皆様<sup>に</sup>理解していただきたいこと



## 早期発見・早期受診が重要です

### Point

<sup>せき</sup>咳が出る時には  
マスクをつけて  
ください。

- 定期健康診断（胸部エックス線検査を含む）を確実に実施しましょう。
- 2週間以上咳や痰、微熱が続くなど、風邪様症状が続く時は、早目の医療機関受診を促しましょう。

## 特に、外国生まれの方の健康管理は大切です

- 結核を発病する可能性があることを理解して対応しましょう

日本人よりも、結核を発病する可能性が高いことを念頭に置いて、健康管理に気を付けることが大切です。

- 文化や生活習慣の違いがあることを理解し、支援をお願いします

言語や生活習慣が異なる環境で、ストレスを抱えていることが推測されます。体調が悪くても、うまく表現できなかったり、医療機関への受診の仕方が分からない人もいるかもしれません。目配り・気配りをお願いします。

- 体調が悪い場合は、上司などへ報告するよう事前に伝えておきましょう

気軽に健康相談ができるよう、体制や環境を整えておくことが大切です。「病気＝退職」の風潮が広まると、体調不良を隠して、病状の悪化を招き、かえって職場内での感染リスクを増大させることとなります。



発行者：熊本県  
所属：阿蘇保健所  
発行年度：令和元年度